

要求いっぱい、会員大募集！ 班会を再開、仲間を迎えて

班会を再開して、班活動もいきいき。仲間を迎えている上京支部さつき班。京都の班活動交流会での発言より紹介します。



再開した班会に、ゲストを誘って…

京都・上京支部さつき班

さつき班は4～5年前までは、ベテラン班長がしっかり班を運営。習字・絵手紙・手づくり・編み物小組(サークル)などがあり、「お楽しみ班会」も定例化し、手書きの班ニュースも発行していました。

この間、高齢化による施設入所や病気療養、親族との同居のため引越など、会員は減る一方でした。さらに、ベテランの班長が体調を崩し、班長不在に。また、コロナ禍に班委員会も班

員でもある会員が定年退職したこと。班委員会を開こうと声をかけ、活動再開となりました。

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう



しんぶんタイムで話も弾んで

班委員会の再開

転機は、支部常任委員でもある会員が定年退職したこと。班委員会を開こうと声をかけ、活動再開となりました。

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

班委員会では「会費をもらっているだけではアカンなあ」と、会員から聞いた話を出し合いました。「最近はお楽しみ班会もない」「このままではさつき班がなくなってしまう

主張

国会閉会まで一カ月余。新婦人の選択的夫婦別姓制度をただちに導入することを求める請願署名は8万人を超え、地元議員や次世代国会行動で要請を重ね、紹介議員は現在116人にまで広がるなど、新婦人の行動が局面を変えています。

4月30日、立憲民主党が1996年の法務省法制審議会の答申にそった法案を提出、日本共産党や社民党が賛同し、国会審議を求め市民とともに動きを強めています。一方、日本維新の会は旧姓の通称使用を法制化する案を作成、国民民主党は立憲とは一緒に

選択的夫婦別姓 姓を選択できる制度へ

4月30日、立憲民主党が1996年の法務省法制審議会の答申にそった法案を提出、日本共産党や社民党が賛同し、国会審議を求め市民とともに動きを強めています。一方、日本維新の会は旧姓の通称使用を法制化する案を作成、国民民主党は立憲とは一緒に

「軍拡を許さない女たちの会」などが呼びかけた国会前の水曜日アクション(毎週17時30分～18時)には市民が駆けつけ、それぞれの思いをスピーチし、「反対する議員に投票しない」「今すぐ審議!」とコールを響かせています。国会行動と連帯し、各地の行動も広がっています。

名前が人格であり、アイデンティティ、人権です。結婚して同じ姓になりたいという人がいれば、別姓がいい人もいます。大切なのは選ぶことができる自由です。

次世代とともに 班活動の前進を

またラッキーなこと、転籍で引越してくる人があつぎ、「着物のリフォームや絵本の読み聞かせならできると」と班に新しい風をもたらしています。

「さつき班」という名前が五月に班が誕生したからですが、この5月に2年ぶりの班総会を開き、新しい班体制を確立します。会員から、どんなことをしたいか、やりたいことや行きたい所などを聞き、班委員会で具体化しようと話しています。

また、班には子育て中の会員が5人います。育児休業中は支部のママチームの企画に楽しく参加していますが、職場復帰し、平日はもろろん土日も集

また、班には子育て中の会員が5人います。育児休業中は支部のママチームの企画に楽しく参加していますが、職場復帰し、平日はもろろん土日も集

また、班には子育て中の会員が5人います。育児休業中は支部のママチームの企画に楽しく参加していますが、職場復帰し、平日はもろろん土日も集

また、班には子育て中の会員が5人います。育児休業中は支部のママチームの企画に楽しく参加していますが、職場復帰し、平日はもろろん土日も集

また、班には子育て中の会員が5人います。育児休業中は支部のママチームの企画に楽しく参加していますが、職場復帰し、平日はもろろん土日も集

また、班には子育て中の会員が5人います。育児休業中は支部のママチームの企画に楽しく参加していますが、職場復帰し、平日はもろろん土日も集

いま教室で 子どもたちは



公立小学校教諭 数内恵

みなさん初めまして。私は都内で、日々子どもたちと奮闘している現役の小学校教師の一人です。今回からの連載では、二十年教師を続けてきた私が、学校で子どもたちが育つとはどういうことか、読者のみなさんと一緒に考え、つづつてみたいと思います。

子育てや教育には正解がないと言われる、「子どもはどう関わればいいのか」と悩む場面は多いのではないのでしょうか。私自身も実際、小学校2年生と中学校1年生の子育てをする親です。学校からの宿題、持ち物、友だち関係、成績、SNS:など。子どもを心配する気持ちや不安にあふれることばかりです。どうしてもまわりと比べてしまったり、こんなはずじゃなかったと悩んでしまったり。また、同じように悩み相談をしにくる親たちの姿を、私は学校現場で何度も見てきました。

子どもたちの「いま」を見つめるために

一方、子どもたちもまた、大人の見えないところで日々たくさんのことを感じ、考え、成長しています。例えば、うまく話せなかったことをノートに書いて伝えたり、「分らない」と勇気を出して言ってみたり。そうした子どもたちの姿こそ、実は小さな「育ち」のかけらたちであり、見落とさずにいたいのなのです。

この連載では、そんな学校生活の日々の中にある子どもたちの「リアルな育ち」をお伝えしながら、家庭ではどんな関わりができていいのかを一緒に考えていきます。きつと、まわりの大人が少し視点を変えるだけで、子どもが見え方も変わってくるのではないのでしょうか。



子どもが摘んだタンポポを教室に

「友だち関係のつまづきをどうチャンスにするのか」「第三回」「通知表に書かれない成長に目を向ける」とは「第四回」「保護者と先生のつながりへ」「第五回」に焦点を当てていきます。

(今回は6月14日号)